

平成 23 年度事業報告書

I 事業実施概要

平成 23 年度は、東日本大震災直後から行なわれていた被災オストメイトへの支援活動の継続から始まった。特に義援金の募集には多くの会員の賛同を得て総額 5 百万円を超える額が寄せられ、被災地支部を通じて会員の被災者に配分され、会員相互の連帯を顕著に表わしたものとして高く評価された。

また、この震災に関しては、被災したオストメイトの避難生活の実状を的確に把握するため、東北 3 県の対象者にアンケート調査を実施し、結果を分析し、被災オストメイトの切実な課題が明らかになったので、都道府県と市町村の取るべきオストメイトの災害対策への提言と合わせて報告書として刊行し、全国の関係方面に配布することとした。今年度の特筆すべきことのひとつとして、永年厚労省に要望していたストーマ装具交換を医行為から解除することについて、同省医政局医事課長から正式回答が得られ、条件付きながら介護職員であっても装具の交換が出来ることとなったことが挙げられる。この新制度のもと介護を受けるオストメイトの Q O L を適切に確保するには、介護職員の研修などが不可欠なので、日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会（以下 J S S C R）や日本創傷・オストミー・失禁管理学会（以下 J W O C M）はそのためのガイドラインを作成し、今後それらに基づく研修や介護現場での対応が進むことが期待される。第 23 回全国大会は、広島県内 3 支部の協力を得て広島市で開催され、約 230 人の参加者を得て、公益社団法人化後初の定時社員総会のほか、支部長会議など定例の集会や講演会をもち、特にシンポジウムでは、「オストメイト等内部障害者のピアサポート」をテーマに、有益な講演と討論が行なわれた。なお、この大会で新役員が選任され、会長が交代し代表理事、業務執行理事に大幅な入れ替えがなされた。

会員数の減少に歯止めがかからない状況に応じて、大災害直後でもあり、会員でないオストメイトに協会の存在と活動を周知する必要性が痛感されたので、外部資金を得て小型三つ折りリーフレットを作成し、支部及び装具販売代理店を通じてすべてのオストメイトの手に渡るよう配布した。同時に、「オストメイトの手引き」の改訂版の編集、協会の新しい宣伝ポスターの作成も行なった。

国際協力では、今年度はアジア・南太平洋オストミー協会（A S P O A）第 1 回大会がイランの首都テヘランで開催され、顧問医会代表の進藤名誉教授を含め日本から 10 名が参加し、各国のオストミー協会関係者と親交を深めた。

II 公益目的事業

1. 講演会・研究発表・講習会事業等

① 講演会の実施

第23回全国大会において次のテーマについて講演会及びシンポジウムを主催した。

- 講演 1. 「笑いの医学」城仙泰一郎氏・広島パークヒルズ病院副院長
2. 「私の輝き！ストーマとともに」梶西ミチコ氏・JWOCM理事

② シンポジウムの開催

1. 第23回全国大会において、ピアサポートの進め方について討論した。

基調講演「障害者のピアサポートとその進め方」中田智恵海氏

NPOひょうごセルフヘルプ支援センター代表

討論「オストメイト等内部障害者のピアサポートはいかに取組むか」

2. 内閣府主催の障害者週間連続セミナーに参加し、オストメイトの災害対策についてシンポジウムを開催し、約60名の参加者が真剣な討論をおこなった。

テーマ：“オストメイトは災害に備えよう！”～東日本大震災からの学び～

2. 相談・助言事業

① ピアサポート基礎研修会開催

1. 東北ブロック（本部主催 開催地：岩手県 5支部 18名参加）

2. 中国ブロック（本部主催 開催地：広島県 5支部 16名参加）

臨床心理士によるピアサポートの講義と、ロールプレイ等による対人援助演習を行った。

3. 神奈川県（神奈川支部主催 参加支部：神奈川県3支部 22名参加）

4. 千葉県（千葉県支部主催 計8回 参加者平均36名）

② オストミービジター研修会の開催

奈良県支部（参加者：12名）及び神奈川支部（参加者：21名）が開催した。

3. 広報啓発事業

(1) 協会誌の発行

協会誌は、年6回(奇数月)、毎回15,000部発行し、会員、関係官庁、地方自治体、顧問医、皮膚・排泄ケア認定看護師、病院、その他の関係団体に配布した。主な記事は下表のとおり。

No.	発行日	協会誌に掲載した主な記事
247	H23. 5. 3	東日本大震災対策(中間報告) 東日本大震災のオストメイトへの義援金のお願い 公益社団法人 日本オストミー協会へ移行が完了 公益社団法人 日本オストミー協会代議員選任について
248	H23. 7. 3	第23回全国大会を広島国際会議場で盛大に開催 「全てのオストメイトのために」高石会長就任挨拶 オストメイトのストーマ装具交換、処理に関し医療行為から外す行政措置の早期実現に関する要望書

249	H23. 9. 3	介護現場におけるストーマ装具交換に厚労省が新見解 第 23 回全国大会広島大会講演「私の輝き！ストーマと共に」 公益社団法人日本オストミー協会 定款細則
250	H23. 11. 3	カミングアウト 介護職員によるストーマ装具交換について 特集 東日本大震災
251	H24. 1. 3	幅広く仲間呼びかけ飛躍の年に！！ 特集 東日本大震災 第 2 回 公益社団法人への寄付金の税金控除制度について
252	H24. 3. 3	第 24 回全国大会新潟市朱鷺メッセで開催 特集 東日本大震災 第 3 回 第 3 回ピアサポート基礎研修会を終えて

(2) 協会誌以外のメディアによる PR

① ホームページ

協会の Web サイトでは、支部の行事開催案内、20/40 フォーカスグループのブログによる情報発信、公益事業の情報公開に務めた。東日本大震災においては、JSSCRやJWOCMと連携してストーマ装具の供給やストーマケアの提供等に関する情報発信を行った。

② 入会案内リーフレット

リニューアルを行い、手に取りやすい形(A4 版三つ折り)とし、カラー印刷とした。各支部の協力のもと、販売店等への協力を依頼し、非会員へ 18 万部の配布を行った。

③ マスコミ取材対応など

TV及び新聞や雑誌等の取材に積極的に対応した。他団体のシンポジウムや講演会にシンポジストとして参加し、オストメイトの体験談の発表や当協会の活動内容をPRすることによりオストメイトの社会的認知拡大に努めた。

4. オストメイト社会適応訓練事業

ほとんどの支部で都道府県委託の社会適応訓練事業として、講演会・講習会や体験交流会などを実施した。(支部ごとの実施状況は末尾の一覧参照)

5. 国際交流事業

(1) IOA 及び ASPOA との国際交流

- ① 2011 年 8 月に、会長がバン格拉デッシュを訪問し、オストミー協会設立についての助言を行った。
- ② 2011 年 10 月にイランのテヘランで開かれた「アジア南太平洋オストミー協会(A S P O A)」の第一回大会に代表団を派遣した。

(2) 助け愛活動の推進

モンゴルオストミー協会(平成 18 年助け愛協力覚書締結)及びベトナムオストミー協会(平成 23 年同締結)に、寄贈を受けたストーマ装具等の提供を行った。(モンゴル宛発 2 回、ベトナム宛発送 2 回)

(3) J I C A 草の根技術協力事業

具体的な活動は実施できなかったが、引き続き実現の可能性を探る。

(4) 海外への情報発信

A S P O A の第 1 回大会において震災被災オストメイトに対する救援活動などを報告した。A S P O A ニュースレターへの記事提供を行った。

6. 調査研究事業

東日本大震災を教訓に、災害時救援対策実施要綱の見直しに取り組むため、災害対策特別委員会を設置した。同委員会は平成 23 年 9 月に仙台市において被災支部と災害時の救援対策について意見交換を行い、さらにオストメイトの被災直後の避難生活に関するアンケート調査を被災地のストーマ装具販売店の協力を得て実施した。調査結果とその考察及び地方自治体に対する提言は平成 24 年度初めに報告書に取りまとめ、全国都道府県及び市区町村を含めて関係方面に配布する。今後はこれらの結果を踏まえて災害時救援対策実施要綱の見直しを行う。

7. 諸団体との連携協力

(1) 日本ストーマ連絡協議会

当協会と J S S C R 及び日本ストーマ用品協会の三者で構成されるこの協議会は、年 3 回の定期協議を行っているが、平成 23 年度は東日本大震災被災オストメイト救援対策における三者の連携・協力の評価と改善策、ストーマ装具交換の医行為解除への対応策及び当協会の広報リーフレットの配布への協力などについて意見交換した。

(2) J O A 顧問医会

介護職によるストーマ装具交換に関する厚労省回答を全国の顧問医に通知するとともに、平成 24 年 2 月の J S S C R の総会（福島県郡山市）の機会に開かれた顧問医会会合（16 名の顧問医参加）において介護職員の研修への協力を求めた。

(3) 政府及び地方公共団体

- ① 政府に対しては、障害者自立支援法廃止以降の新たな障害者総合福祉法制定に向けまとめられた内閣府の障がい者制度改革推進会議総合福祉部会の骨格提言が全面的に実現されるよう、日本身体障害者団体連合会（日身連）など障害者団体と連携して働きかけた。
- ② 国土交通省の「多様な利用者に配慮したトイレの整備方策に関する調査研究会」に当協会理事が参加し、多機能トイレだけに頼らない、オストメイトにとってより使いやすいトイレ整備のガイドライン作成に協力した。
- ③ 都道府県においては、平成 24 年度から 3 年間の障害者施策の基本指針及びその実施計画である障害者福祉プランを、パブリックコメントや障害者団体の意見を反映して確定したが、いくつかの J O A 支部においては本プランへの意見・要望等を提出、その一部はプランに反映された。

(4) 日身連及び日本障害フォーラム

日身連には会長が理事として運営に参画するとともに、例年通り政府に対する要望事項を、日身連を通じて提出した。新たな障害者総合福祉法（通常国会に提出された政府案では「障害者総合支援法」）において骨格提言が全面的に反映されることを目指して、日身連と日本障害者フォーラムとも連携して与野党に働きかけるなどの活動に参画した。

Ⅲ. 東日本大震災被災者に対する義援金の募集と配布

東日本大震災による被災者およびその家族に対する支援の一助として、災害時救援対策実施要綱第 10 条に基づき、災害義援金を募集し、547 名から 5,125,002 円（平成 24 年 3 月末）の募金があり、これに協会から 870,198 円を拠出し、総額 5,995,200 円を岩手県、宮城県、仙台市及び福島県支部のオストメイトへの見舞金、及び大きな被害を受けた前記 4 支部と青森県及び茨城県支部に救援活動支援費として送金した。

死亡見舞い金(10万円)	5名
家屋全壊見舞金(10万円)	25件
家屋大規模半壊及び半壊見舞金(5万円)	32件
原発避難者見舞金(2万円)	16名
支部活動費補助(10万円)	6支部
被災4支部活動支援費(総額)	475,200円

Ⅳ. その他事業

1. 災害対策

（前記「調査研究事業」の項参照）

2. 高齢化対策

介護を受けざるを得なくなった時の不安のひとつを解消するために実現した介護職によるストーマ装具の交換であるが、それがオストメイトのQOLを適切に維持できるようにするためには、医事課長回答にも示すように慎重な対応が必要である。当協会の要請に応じてJSSCRは介護職員の講習プログラムを作成し公表した。またJWOCMも、家族や介護者等がストーマ装具交換を担っている場合に、どのような時に医療者へ相談したらよいかを明文化する等の検討を行っている。

また、第23回全国大会（広島）では、シルバー世代交流会と開催し、「高齢者になってからのストーマケア」及び「いつまでも元気であるために」をテーマに意見・体験交流を行なった。

3. 若年対策

(1) 若年オストメイトに対する情報発信

会報、ブログ、メルマガにより情報発信を行い、登録会員は70名を超えた。ASP OA20/40フォーカスグループとの交流（メール）も継続している。

(2) 「若いオストメイト交流会」の開催

6月に広島全国大会で、7月に神戸市及び東京、8月に山形市、24年1月には福岡市で「若いオストメイト交流会」を開催した。いずれも非会員の20～50代のオストメイトが参加し成功を取めた。

(3) 他団体との共催イベント

- ◇ ウォーク&ランフェスタに実行委員として参加し、イベント運営に協力。
- ◇ ブルーリボンキャラバン(大腸ガン)12/3 大阪のイベントへの協力。

(4) リーフレット及び冊子等

- ◇ 20/40 フォーカスグループリーフレットのリニューアルを行った。
- ◇ 小児・若年オストメイト用の冊子の作成のため、正力厚生会助成金を申請し決定した。

V. 会員・組織整備

1. 会員増強活動

第2次会員増強活動の最終年で、正会員増強に努めたが、減少傾向が続いている。

正会員数	平成22年	10,066名			
	平成23年	9,910名	前年比-156名	減少率(対前年比)	1.55%
	平成24年	9,640名	前年比-270名	減少率(対前年比)	2.72%

2. 会員サービス

- ①本部では、メールや電話による入会申し込みを171人から受け、支部に連絡し入会手続きを依頼した。
- ②ジパング倶楽部の新規申し込みや更新手続きは、年間413件を受け付けた。
- ③新たに設けた会員種別「準会員(ウェブ会員)」と「特別会員」向けのサービス体制の構築には取りかかれなかった。

VI. 会務

1. 統一会計経理ソフトの決算処理

公益社団法人として、法律、公益法人会計基準及び納税義務などに効率的に対処するため、会計ソフトAiを導入し、本部・支部統一会計処理をとり進めている。この業務を円滑に行うため、財務委員会に、神奈川支部の協力を得て「事務センター」を設け会計ソフトを導入できない支部の支援を行い、また平尾幸一会員(公認会計士)の協力による「ヘルプデスク」を設置し、全国の経理担当者への公益会計処理及び会計ソフトの普及と指導をお願いし、公益法人移行後の最初の決算処理を行った。

2. 主な活動

(1) 本部通信の発行

本部ニュースを当初3ヵ月に1回発行していたが、この間隔では、ニュース性に乏しいので、タイトルを「本部通信」に改め、原則隔月発行にした。第1号は平成23年11月7日に発行、第2号は12月19日発行、第3号は2月1日発行、第4号は3月29日に発行し、理事、幹事、支部長、支部事務局長及び支部広報・会計担当者に配布

した。

(2) 本部の主な対外活動

月 日	活 動 内 容
H23. 04. 01	公益社団法人日本オストミー協会を登記
04. 05	第 43 回理事会（書面表決）、会長、副会長、業務執行理事の選定、役員選考規定の制定等
04. 05	第 17 回ストーマ連絡協議会
04. 08	公益社団法人移行に関する件（J O A 第 23-3 号通知）。公益社団法人移行に伴うオストメイト社会適応訓練事業の受託契約に必要な登記簿謄本などの送付
04. 25 ～27	高石副会長と事務局長が福島県（郡山市、福島市）、岩手県（盛岡市）、宮城県（宮城県支部、仙台市）の装具販売店、行政等を支部役員と共に訪問し、被災者救援活動に感謝の意を伝える。
05. 19	国際部助け愛活動、モンゴル宛ストーマ装具発送
05. 25	厚生労働省医政局の村田善則医事課長訪問し、医行為問題について要望。
05. 26 ～27	第 56 回日本身体障害者福祉大会（富山大会）に会長出席
06. 04 ～07	第 23 回全国大会（広島大会）
06. 08	会長ほか厚生労働省医政局の村田善則医事課長訪問、第 23 回全国大会で採択の医行為に関する大会決議文を提出。千葉県支部顧問の小川氏同行
06. 16	会長がアルケア社鈴木社長と面談、アジアのオストメイトのための活動に 500 万円寄付の約束を得る。
07. 07	会長が進藤名誉教授、小川国彦氏などと共に厚生労働省にて医政局医事課、村田課長より『ストーマ装具の交換について』通知を受領。
07. 19	第 18 回ストーマ連絡協議会
07. 20	笹岡副会長が、日本看護協会認定看護師教育課程皮膚・排泄ケア学科講義（リハビリテーション概論 オストメイト福祉の課題）
07. 25	国際部助け愛活動、ベトナム宛ストーマ装具発送
08. 10 ～15	会長がバングラディッシュ国訪問、同国の協会設立助言。
09. 13	東日本大震災・被災オストメイトに関する情報交換会（仙台市 カンファレンスセンター）
09. 16	国土交通省来訪、多機能トイレの機能分散について意見交換
09. 29	会長、日身連セミナー「障害者制度改革」（参議院議員会館）に参加
10. 05	会長、公明党災害対策本部・障害者福祉委員会「災害時における障がい者支援と今後の防災対策について」（衆議院会館）に出席
10. 11	国際部助け愛活動 モンゴル宛ストーマ装具発送
10. 14	会長と谷口業務執行理事が、厚生労働省障害保健福祉部や老健局を訪問し、医行為解除の件で情報収集

月 日	活 動 内 容
10.17 ～27	会長及び笹岡副会長、石井業務執行理事がアジア・南太平洋オストミー協会(A S P O A)のテヘラン大会出席
10.28	国土交通省委託 国土技術研究センター(J I C E)「多様な利用者に配慮したトイレ整備方策に関する調査研究会」第1回会合に村山理事出席
11.01	第19回ストーマ連絡協議会
11.18	会長、民主党の障がい者総合福祉法に関する会議に参加
11.24	民主党との要望懇談会
12.04	会長、工藤理事及び池嶋氏がブルーリボンキャラバン「もっと知ってほしい大腸がんのこと in 大阪」に参加し講演
12.07	内閣府主催障害者週間セミナー(会場：明治学院大学)で「オストメイトは災害に備えよう」のセッションを主催
12.07	稲垣豪三氏及び新井貢氏の両元会長が、厚生労働大臣表彰(厚生援護功労者賞)を受ける
12.20	会長、共産党議員団との懇談会に出席
01.24	会長、国立がん研究センター(築地)創立50周年記念式典に参列
01.25	国際部助け愛活動、ベトナム宛ストーマ装具発送
02.02 ～03	J S S C R 総会(福島県郡山市)で会長がオストメイト災害時救援について講演
02.02	市民公開講座「もっと知ってほしい大腸がんのこと in 埼玉」に石井業務執行理事が参加
02.26	渡業務執行理事、仙台市でのがん患者の集いで講演
03.05	国際部助け愛活動 ベトナム宛ストーマ装具発送
03.06	第20回ストーマ連絡協議会
03.08	会長、民主党の「障害者総合支援法案」に関する会議出席
03.11	J W O C Mとの定期連絡会議

(3) 全国大会の開催

広島県の広島国際会議場で広島県内支部の協力を得て、下記行事を実施した。

期日	場 所	行 事(参加者数)
23.6.4	広島国際会議場 大会議室「ダリア①②」他	支部長会議(49名) / 20/40 フォーカス全国交流会(43名) / シルバー世代交流会(65名) / 関係団体挨拶 / シンポジウム第1部・第2部(139名) / ピアサポート実務討論会(52名) / 支部活動情報交換会(78名)
H23.6.5		式典 / 通常総会(207名) / 理事会(23名) / 講演会・アトラクション(207名) / オストミー製品展示会 / 懇親パーティー(150名) 大会参加会員数(非延べ人数)
H23.6.6 ～6.7	宮島(厳島神社)、他	研修ツアー 日帰り(19名)、1泊2日(14名)

(4) ブロック会議の開催

ブロック会議は、災害対策及び広報活動を共通テーマとして次のとおり開催された。

No.	ブロック名	開催日	開催場所	出席者数
1	東北	H23.09.25 ～26	山形県 天童ホテル	15名
2	関東	H23.10.22 ～23	千葉市 ホテルプラザ菜の花	36名
3	北陸信越	H23.10.28 ～29	新潟市公立新潟共済会館	6名
4	東海	H23.10.29	名古屋市 ヤガミホームセンター	16名
5	近畿	H23.10.29	滋賀県草津市立まちづくりセンター	29名
6	中国	H23.10.27 ～28	呉市 ビューポート くれホテル	13名
7	四国	H23.10.25 ～26	高知市保健福祉センター	8名
8	九州	H23.11.4 ～5	沖縄 琉球興和会議室、ホテル球陽館	11名

(備考) 北海道ブロックは年度内に開催できず、24年度当初に開催

(5) 若いオストメイト地方交流会の開催

若いオストメイト地方交流会は、例年と同じく4ブロックで開催された。

No.	ブロック名	開催日	開催場所	出席者数
1	近畿	H23.7.3	兵庫県神戸市「総合福祉センター」	24名
2	関東	H23.7.18	東京都障害者福祉会館	43名
4	東北	H23.8.27	山形市総合福祉センター	14名
3	福岡	H24.1.22	福岡市立心身障がい福祉センター	45名

(6) 主な会議の開催

- ① 理事会は、平成23年5月10日／臨時理事会 同年6月5日／同年8月10日／同年9月24日／平成24年3月20日に開催。
- ② 業務執行理事会は、毎月1回(計11回)開催。
- ③ 支部長会は、平成23年6月4日(土)に49名出席にて開催。
- ④ 定時社員総会は、平成23年6月5日(日)に代議員80名(委任含む)出席にて開催。
- ⑤ 本部事業部の会議開催
企画部会議1回／相談部会議2回／広報部会議3回／20/40 会議3回／国際部会議1回(Web会議)
- ⑥ 本部委員会の会議開催
全国大会実行委員会
第23回全国大会(広島大会)実行委員会1回

第 24 回全国大会(新潟大会)実行委員会 4 回
 第 25 回全国大会(岐阜大会)実行委員会 1 回
 その他の委員会
 会員組織委員会 2 回／財務委員会 5 回／災害対策特別委員会 1 回／表彰審査
 委員会 1 回(W e b 会議)／

3. 電子図書の開設

ウェブ上に電子書庫を設け、規程類、一部会誌及び本部通信、支部会報・会則などを格納し、試験運用を開始した。

Ⅶ. 支部活動

講演会等事業 (オストメイト社会適応訓練事業含む)

支部名	講演会 講習会 (回)	シンポ ジウム (回)	ワーク ショ ップ (回)	セミ ナー (回)	初心者 講習会 (回)	体 験 交流会 (回)	宿泊 研修 (回)	日帰り 研修 (回)	会 報 発 行 (回)	社 適 委託料 (円)	会員数 H23.3. 末
北海道 旭川	4					1	1		6	221,000	76
帯 広	2			1		1			3	128,000	45
札 幌	5					9	2	10	7	180,000	221
函 館	1					4			6	0	60
青森県	12				1	2			6	396,000	186
岩手県	32	1				1	1	1	6	729,068	268
宮城県	8						1		6	0	82
仙台市	1		5	5		5	1		6	260,000	98
秋田県	1						1	5	4	203,000	122
山形県	2		4			3	1	4	4	168,000	78
福島県	7						3		6	185,000	170
茨城県	8					4	1	1	5	313,000	275
栃木県	9					1	2		6	430,000	134
群馬県	3					5	2	1	6	293,000	132
埼玉県	4	5				26	1		6	492,000	359
千葉県	13		2			12	1	2	6	752,500	501
千葉市	3					10		1	6	275,000	101
東 京	8					12	1	2	6	707,000	593
三多摩	5					2			6	368,000	318
がん研	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	40
神奈川	15				1	5	2		7	284,000	388
横浜市	1				1	11	2	2	6	350,000	484
川崎市	1					7	1		5	350,000	132
山梨県	7						1		7	299,220	43
新潟県	10						1		6	412,000	231

支部名	講演会 講習会 (回)	シンポ ジウム (回)	ワーク シヨ ップ (回)	セミ ナー (回)	初心者 講習会 (回)	体 験 交流会 (回)	宿泊 研修 (回)	日帰り 研修 (回)	会 報 発 行 (回)	社 適 委託料 (円)	会員数 H23.3 末
富山県	3						1	1	6	280,000	87
石川県	3	2	0	3	1	1	1	1	6	280,000	123
福井県	2	0	0	2	0	1	1	1	6	0	67
長野県	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	21
岐阜県	1					6	1	1	6	82,000	55
静岡県	6					1	1		6	749,400	141
愛知県	2				2				6	331,000	289
三重県	5						4		4	470,000	91
滋賀県	7			1		1		1	6	306,000	99
京都府	4					3		1	6	945,000	242
大阪府							1	2	7	0	124
関 西	3	2	2	3	1	3	0	1	6	0	263
兵庫県	6		6		1	9	1	1	6	1189,000	504
奈良県	3					6	1	1	6	149,000	147
和歌山県	18				1	1	1		6	219,000	100
鳥取県	3	1					1		3	370,000	73
島根県	6					7		3	6	400,000	119
岡山県	3	0	2	0	0	6	1	0	6	288,000	210
広島県東 部	4					12		1	12	118,000	78
広島県	6					1	1		6	260,700	163
広島県呉	4					12		1	6	94,800	70
山口県	12					6	1		4	0	146
徳島県	0	0	0	0	0	0	0	0	0	200,000	53
香川県	2				1	1	1	1	6	390,000	72
愛媛県	1					2			7	107,000	85
高知県	1					1	1	1	6	200,000	68
福岡県	13					12	1		6	1155,000	202
福岡市	13						1	1	6	473,970	97
北九州市	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
佐賀県	1					2		1	5	178,200	84
長崎県	7						1		4	500,000	99
熊本県	2		2		1	7	1		3	228,000	96
大分県	6						1		6	500,000	114
宮崎県	8			2			1		3	545,000	131
鹿児島県	5		1		3				2	362,000	139
沖縄県	1					36			3	600,000	51
合 計	323	11	24	17	14	258	51	49	322	2069,4858	9640